

法人を中心とした農地の集積と 都市住民との交流

ライスセンターを核とした地域農業の発展を目指して



稲刈り体験

ほ場整備事業（県営担い手）

神野・保品地区

千葉農林振興センター

1 地域の概要

八千代市は、首都30キロ圏の位置と交通の便、自然環境の良さから首都圏のベッドタウンとして急激に発展し八千代台、勝田台、米本、高津、村上の五つの大規模住宅団地があり、平成8年4月には都心に直結する東葉高速鉄道が開通し新しい駅を中心に開発が進み、今後もさらに発展が見込まれている。市の北側半分は、下総台地に林地や農地も多く、南側半分は、林地を残しつつ、景観に配慮した市街地が形成され市の中央を新川が南北に流れ、人々の憩いの場ともなっている。

農業の概況としては平成13年現在で、市内の農家は1,034世帯、農家人口は4,621人、経営耕地面積は1,020ヘクタールとなっており、主な農作物に水稻、ほうれんそう、ネギ、にんじん、施設野菜などがある。また、果樹では、なし、くりなどがあり畜産では乳牛、養豚があげられ、農業粗生産額は、野菜が19億円、畜産10億円、米5億1,000万円、果物6億3,000万円、その他2億円で計42億4,000万円である。

本地区は、千葉県八千代市の北部に位置し、一級河川新川の左岸に細長く弓状に広がる水田地帯であり、昭和21年から43年度にかけて行なわれた国営印旛沼開発事業により区画整理(5a)されたものの、整備水準は低く道路は狭小であり用排水条件の不備が目立っていた。施設園芸や果樹栽培も行なわれていたが、一戸あたりの平均耕作面積が約1.1haと少なく、連作障害等から水田の汎用化が望まれていた。また、農業後継者不足により、作業受託のための営農組織設立と低コスト化のための大区画整理が望まれたため、まず地元による組織を設立し独自に他事業の発生土を受け入れた盛土を行ったことにより地盤のかさ上げを図りその上での本事業の実施となった。

2 事業の概要

水田81haと畑9haの90haを区域設定し1ha以上の大区画29haの区画整理と有効幅員3～5.5mの道路整備9973mを実施すると共に、揚水機場3箇所の新川より用水を取水しパイプライン11783mを通じて各水田へ送水している。また、U字溝やコンクリート柵渠による排水路護岸整備8611mを行うほか水田全域に暗渠排水を実施し汎用化水田が整備された。併せて、緊急農道整備事業により基幹道路の整備が実施された。

事業名：ほ場整備事業（県営担い手） 神野・保品地区

事業工期：平成5年度～14年度

受益面積：90ha（水田81ha、畑9ha）

事業費：1,407,200千円

3 事業の成果

1) 二つの法人による経営拡大

整備された地区内水田を対象として神野地域では農事組合法人スクラム，保品地域では農事組合法人エム・アール・アイの二つの法人がそれぞれライスセンターを中心として作業受託による稲作経営を行っており、その集積割合は地区内の 35.3%となっている。

- ・農事組合法人スクラム 神野ライスセンター
平成7年度 大規模複合営農推進モデル事業
- ・農事組合法人エム・アール・アイ 保品ライスセンター
平成9年度 大規模複合営農推進モデル事業

2) 作業性の効率化の向上

また、担い手である法人代表へのアンケートの結果として下記の効果を挙げている。

- ① 5a 区画を 1 ha 区画としたため作業効率が上がり労力が軽減された
- ② 用水施設としてパイプラインが設置されたため、水管理が楽になった
- ③ 各水田に隣接して道路が整備されたため耕作機械の出入りがスムーズとなった

3) 非農用地の創設

さらに本事業実施に伴う事業効果として、非農用地創設により農村公園、県道及び基幹農道、ライスセンターなどの用地が創設されている。

4) 都市住民との交流

都市近郊の立地にあるため整備された水田を会場とし、9月に親子の農業体験として稲刈りが開催され親子 80 名が集い鎌による稲刈りやおだかけの体験を行った。

(表紙写真)

4 今後の課題

水田の基盤整備は整ったが水稲作が中心であり土地利用を生かした生産性のより一層の向上が課題となっている。また、担い手法人による土地利用の集積が進行しているがより一層の経営規模の拡大を目指す意向もあり、今後土地利用の調整を組織的に図っていくことが課題と思われる。

田植え後



対岸の状況（施行前に似た状況）



コンバインによる刈り取り



刈り取り後トラックへの積込



神野ライスセンター



保品ライスセンター

